

423
305

大觀社
亞細亞寫真



蒙古點描 (六)

百五十一回・十三輯ノ七回

- 喇嘛僧の集ひ……………一
- 葛根廟喇嘛僧……………二
- 葛根廟小喇嘛……………三
- 葛根廟喇嘛街……………四
- 葛根廟財神の壁畫……………五
- 葛根廟喇嘛の墓……………六
- 蒙古婦人……………七
- 廟會の婦人の集ひ……………八
- 喇嘛廟會の詣……………九
- 葛根廟會の集ひ……………一〇

森田正義

大連市山縣通一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話②六二三五番
振替穴連七一八番

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

編輯人 大連市山縣通一九三 青 山 捨 夫
 同 青 山 捨 夫
 發行人 大連市三河町二一 島 崎 役 治
 印刷人 鈴 木 周 哉
 發行所 亞細亞寫真大觀社



喇嘛僧について 森田正義

喇嘛教が、西藏から蒙古地方に信じられてゐる宗教であることは、いま改めて云ふ必要もない、それほど深く信仰されてゐる宗教で、世人は、喇嘛教と云へば蒙古を思ひ、蒙古と云へば喇嘛教を思ふほどに民族と宗教との連繋が深いものである。であるから、蒙古は喇嘛の國であり、喇嘛の民族であること云つてもよい。

以上の如く喇嘛教の盛んな國だけあつて、蒙古には、喇嘛教の寺院が多い、世人はこの喇嘛教の寺院を喇嘛廟と云つてゐる。

その喇嘛廟には、廟をまもり、廟で生活して行く喇嘛僧がゐる。その僧も、その廟の大小によつて、數人から數十人、數百人、千人と算する程の僧がゐて、そのうちに、活佛と稱する僧がゐて、廟を守り、千人の僧を絶対權力の支配下に於て主宰してゐる。従つて、喇嘛教徒は、王公の命にはそむくとも、活佛の命には絶対的の服従をしてゐるのである。故に、活佛の生活は王公の生活よりも贅を極め、王公よりも自由な生活をしてゐるのである。そして、その支配下にある喇嘛僧は、喇嘛街と稱する僧房に起居生活して、朝に經を念じ、夕べに經を寫して暮してゐるのである。が、またほかに、司書を掌る僧もあり、廟が所有する土地を耕作し、收穫の勞役に従ふ者もある、その他の雜役等、一切がそれ／＼階級の喇嘛僧によつてなされ、全く、一つの自治王國をなした觀がある。斯く、千人に達する喇嘛僧は、どうして集るか云へば、蒙古民族の習性として、一家には長男以外はとどまらず、二男坊三男坊は、七八才から十二三才までの間に剃髮得度して喇嘛廟に入り、各班の僧房に收容され、小喇嘛と唱えられ、喇嘛僧としての總ての修行をなすのである。女人禁制の喇嘛廟には、活佛と雖ども女人の帶同を許さない、従つて、僧房内では禁慾生活が強られてゐるが、僧房外の生活は、喇嘛僧といへども人間であるから咎めない、これが喇嘛教の掟である。故に活佛は一代きりである。だからと云つて、一人の活佛が遷化しても、廟内の喇嘛から聖僧博識を求めるのではない、後任活佛の選定はまた難事である。喇嘛僧の聖僧博識達が使者となつて、活佛を求めるために、馬に乗り、駱駝に跨り、山を越え、沙漠を渡り、野に伏し山に寝、河邊に宿りして、遠く西藏のガラ廟に詣で、後任活佛の選定の伺ひを立てるのである。すると、ガラ廟では、廟から方向を示し、里數を教え、その土地に、何年何月何日に生れた男兒がある、それが、今度の活佛である。と教へるのである。これだけの教示を受けた使者達は長旅を了えて廟に歸ると、大がかりの活佛探しが始るのである。廣い蒙古のことであるから、西藏のガラ廟が教示したのに似た男子がない譯ではない、それに似た男子があれば、どんな貧民賤民の子供でも連れて廟に歸り、活佛として崇敬するのである。馬鹿な話のやうであるが、貧民の家から活佛が出たために、その家が俄に富有になり、部落の権力家になつたと云ふ例は尠くない、だから蒙古人達は、自分の家から活佛が出ることを望んでゐるのである。

以上の如く、活佛と云ひ、喇嘛と云ひ、その生活には、喇嘛としての特權があり、他に求められぬ味はないがあるから、蒙古民族にはやめられぬものである。その味に陶醉して行くことが出来る掟になつてゐるから、蒙古民族が喇嘛を信仰し崇拜する、そのために國情が衰退して行くことも氣がつかない。宗教は阿片なりと云ふが、喇嘛教の如きが、阿片の代表的なものであらう。

喇嘛

蒙古喇嘛廟には、その廟の大小に従つて、小の喇嘛街あり、廟會(お祭り)の際には、喇嘛街の僧房は一人残らず廟に参集するのである。が、またその近郊の小廟の僧侶も廟會にはおしよけるので、廟會の時には、千人或は數千人に達する。

亞細亞大觀

ことを望んでゐるのである。

以上の如く、活佛と云ひ、喇嘛と云ひ、その生活には、喇嘛としての特権があり、他に求められぬ味
はいがあるから、蒙古民族にはやめられぬものである。その味に陶醉して行くことが出来る筈になつて
ゐるから、蒙古民族が喇嘛を信仰し崇拜する、そのために國情が衰退して行くことも氣がつかない。宗
教は阿片なりと云ふが、喇嘛教の如きが、阿片の代表的なものであらう。



ひ集の僧喇喇 (古 蒙)

蒙古喇嘛廟には、その廟の大小に従つて大
小の喇嘛街があり、廟會(お祭り)の際には、
喇嘛の僧房は一人残らず廟に参集するの
であつた。また、その廟會の時、千人或は
は、おし、けるので、廟會の時、千人或は
千何百人か、去る。廟會の時、千人或は
の、ある。廟會の時、千人或は
から、ある。廟會の時、千人或は
この、ある。廟會の時、千人或は
僧集の、ある。廟會の時、千人或は
札薩克喇嘛、大部分で、廟會の時、千人或は

(印畫の複製を禁ず)

(一の回七輯三十圖大亞細亞)

4
3



喇嘛僧

(古蒙)

喇嘛僧の通稱で蒙古語に「大師」を意味する。これは、黒羊教の僧侶が、筆墨を用いて、壁に書いたり、紙に書いたりするところから、筆墨僧、黒羊僧、黒羊大師、黒羊大師僧、黒羊大師僧長、黒羊大師僧長老、黒羊大師僧長老、黒羊大師僧長老等と区別が、ある。この黒羊教は、モンゴルにあり、元朝の時に、中国に伝わった。喇嘛僧の儀式は、僧徒は、黒羊教の儀式に従って、修行をする。喇嘛僧の儀式は、僧徒は、黒羊教の儀式に従って、修行をする。

(二の同じ幅三十図大亞細亞)

小

旗民、即ち蒙古人の男児は、二男以下は、始に喇嘛僧となる習慣がある。入廟得度の年齢は、喇嘛僧の儀式に従って、修行をする。

(細亞)



小喇嘛 (古蒙)

旗民、即ち蒙古人の男児は、二男以下は殆ん
 ど喇嘛僧となる習慣がある。大概七八歳から十二
 三歳の位で、喇嘛僧の間、剃髪する。喇嘛僧として
 入廟得度し、喇嘛僧の間に、喇嘛僧として入廟
 先入の喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は各々僧房に入れ
 切の修業を受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 切算の業、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 訓育は、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 ひまは、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 ならぬ、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 いちの勤行を終り、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 朝の勤行を終り、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 朝の勤行を終り、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、
 朝の勤行を終り、喇嘛僧に受ける。喇嘛僧は、智的、精神的、

(三の回七輯三十観大亞細亞)

僧 (古)
 (附記、喇嘛僧のことだと云ふことである。印畫の複製を禁ず)
 (印畫の複製を禁ず)



喇嘛廟街
(古蒙)

蒙古には喇嘛僧の僧房がある。その
 あり、廟の大小、喇嘛僧の僧房の
 ち、百数十の僧房から二百、三百と云ふ
 何、百数十の僧房が一つの喇嘛街をな
 房、は、泥造り、石灰質の土を塗り、雨
 漏、り、防ぐ爲に、毎年泥を盛るので、
 生、草の根が混つて、夏になると青々
 生、えるのである。この廟街には、種
 つ、る、耕作用の畜、僧侶のみに、讀
 り、て、ある。その角、僧房のみならず、
 れ、ぬ、風景である。こゝは、蒙古の喇
 印畫の複製を禁す

(亞細亞大圖三十圖七の同圖)

これは才神の壁畫である。敢て蒙古喇

4
3



財神の壁畫
(古蒙)

これは財神の壁畫である。敢て蒙古喇嘛廟のみに見るものでなく、財神の壁畫は、どの廟にもある。讀んで字の如く、財神の意の如く、財は寶であるから、財を司る神の繪である。兎に角、有難い神の繪であつて、蒙古風影として新しく紹介するまでもないが、この壁畫は、葛根廟の壁畫であるから紹介するだけである。
(印畫の複製を禁ず)

(五の回七料三十圖大亞細亞)

廟街
(古)

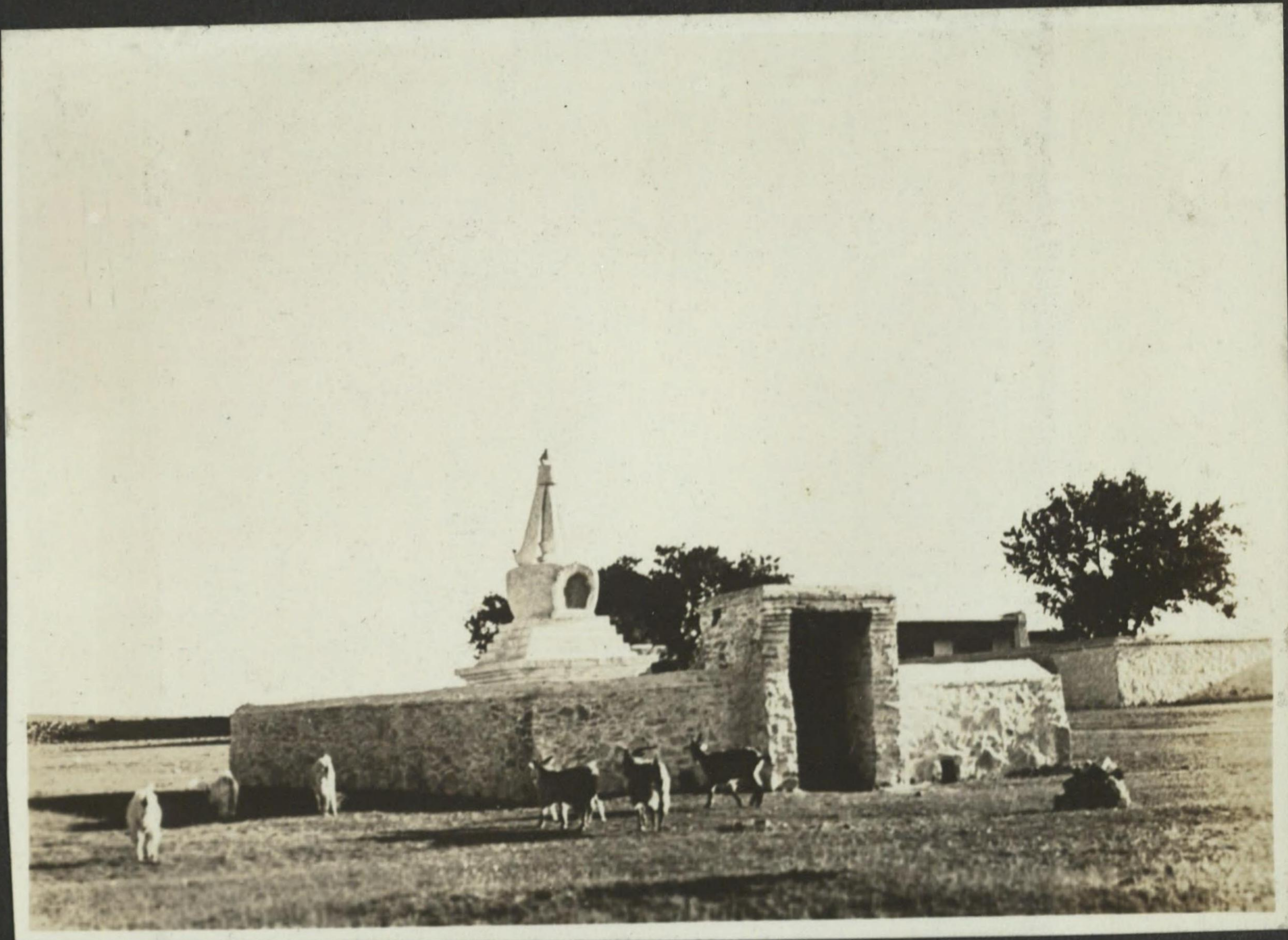
生草の村である。この廟街には僧侶のみが住んでゐる。その僧侶にも種々の階級と役目がある。耕作に従ふ者、買従ふ者、讀經三昧に耽つてゐる者、僧房のみをもつて、一つの街をなしてある云ふことは、蒙古の喇嘛ならでは見られぬ風景である。
(印畫の複製を禁ず)

(四の回)

喇 嘛 的 墓
(古 蒙)

て一般の蒙古民族には墓と云ふものはない、
 一、喇嘛の教徒にも墓と云ふものはない、
 二、喇嘛の喜山に於ては、
 三、蒙古の野に於ては、
 四、蒙古の沙漠に於ては、
 五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 二十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 二十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 二十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 二十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 二十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 二十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 二十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 二十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 二十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 二十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 三十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 三十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 三十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 三十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 三十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 三十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 三十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 三十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 三十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 三十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 四十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 四十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 四十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 四十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 四十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 四十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 四十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 四十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 四十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 四十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 五十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 五十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 五十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 五十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 五十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 五十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 五十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 五十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 五十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 五十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 六十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 六十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 六十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 六十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 六十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 六十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 七十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 七十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 七十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 七十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 七十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 七十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 八十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 八十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 八十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 八十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 八十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 八十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 九十、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九十一、蒙古の活佛の墓に於ては、
 九十二、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九十三、蒙古の活佛の墓に於ては、
 九十四、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九十五、蒙古の活佛の墓に於ては、
 九十六、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九十七、蒙古の活佛の墓に於ては、
 九十八、蒙古の喇嘛の墓に於ては、
 九十九、蒙古の活佛の墓に於ては、
 百、蒙古の喇嘛の墓に於ては、

(六の回七輯三十圖大亞細亞)



4
3



蒙古婦人
(古蒙)

蒙古の奥に行くと、蒙古の女は寫眞のやうな扮装をしてゐる。寫眞の女は、頭を巻き、胸間に首飾りをしてゐるところ、
を見れば、紅粉をつけてゐる顔、
にも、吃度、紅粉をつけてゐる顔、
うが、惜しいことには、普通の紅粉であらう、
とが、見えない、この女は、普通の紅粉であらう、
あるから、飾りつけ、
そのおしつけ、
人その飾りつけ、
頭には飾りつけ、
美なものである。

(七の回七輯三十圖大亞細亞)

墓の
(古)

墓の奥に行くと、蒙古の女は寫眞のやうな扮装をしてゐる。寫眞の女は、頭を巻き、胸間に首飾りをしてゐるところ、
を見れば、紅粉をつけてゐる顔、
にも、吃度、紅粉をつけてゐる顔、
うが、惜しいことには、普通の紅粉であらう、
とが、見えない、この女は、普通の紅粉であらう、
あるから、飾りつけ、
そのおしつけ、
人その飾りつけ、
頭には飾りつけ、
美なものである。

(六の回七輯三十圖)

喇嘛

許まけは喇
でがは喇
参出女喇
進來人廟
してが參
男詣は
さだ禁
同から制
じ喇
い喇
位二喇
置つ教
で、法
拜、悅
す喇
る喇
こ佛
は前

亞細亞

ひ集の人婦の會廟
(古 蒙)

貌嘘をにをり廟す女
をだ願伏心、をる達廟
見とひしに鐘拜こは會
る思、て描がすと、を
がつ過、い鳴るが喇慕
いた去生てりの出嘛ふ
いらの、すで來のて、
罪歡或れあな掟、
こ惡喜はばるいに遠
のをを停、のよ近
婦謝訴立目軀でつから
人すえのにて、てら
達の、ま見、中、集
の、未まえラ庭奥つ
敬で來、ぬツに殿た
斌あ、の或神パ集に蒙
なる幸は、のがり參古
相。福地姿鳴、進の

(印畫の複製を禁ず)

(八の回七輯三十圖大亞細亞)



42
3



詣の會廟嘛喇 (古 蒙)

けは喇嘛廟は女人禁制である。然し廟會の時だ
とが女人も参詣して、喇嘛の法悦に侵るこ
まが参進して男と同じ位置で拜すること
許さるる。寫眞は、遠い田舎の親子が打ち
集ふこの廟祭は、お詣りしたところから、
女内には中門の奥まで進むことが出来な
停んでは、法悦に侵る。お詣りしたところ
で、お詣りしたところから、門外に
と、お詣りしたところから、門外に
と、お詣りしたところから、門外に

(印畫の複製を禁ず)

(九の回七輯三十圖大亞細亞)

ひ集の人 (古)

貌を願ひして、過去の罪惡を謝するの
を思つたら、この婦人達の敬斌な相
見ると、過去の罪惡を謝するの
を思つたら、この婦人達の敬斌な相

(印畫の複製を禁ず)

(八の回七)

ひ 集 の 會 廟
(古 蒙)

あお者のて利或男る外大さまる。喇
 る土おのには善、に、賑せで。年嘛
 産も祭るさ消女、にはをすも、に廟
 を、りさ、達の、を、呈、扮、何の
 買、こ、年、し、が、寫、が、す、装、回、の
 つ、の、分、に、者、は、る、の、は、ち、の、何、か、の
 たり、だ、あ、回、手、る、の、廟、は、芝、の、清、廟、は、
 け、ら、の、を、こ、庭、近、居、小、屋、の、善、男、清、近、盛、大、な、も、
 買、喰、ひ、財、日、常、は、喰、物、の、間、を、休、の、で、の、し、謂、で、
 印、の、の、を、禁、ず、

(十の回七輯三十圖大亞細亞)

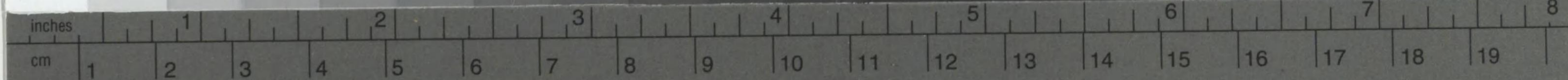


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

